



市民病院通信

熊本地震被災地でのDMAT活動



ディーマット

熊本地震の発生に伴う県からの要請により、西尾市民病院DMATチームは3月17日～20日に、被災地で災害支援活動を行いました。初めての活動です。

DMATとは「Disaster Medical Assistance Team」の略で、医師や看護師、業務調整員で構成された災害派遣医療チームのことです。今までに、災害発生直後の多数の患者を重症度別に区分けするトリアージや、短時間に多くの患者を診て効率よく必要最低限の治療を行うスキルの習得、被災地区の病院で治療困難な方を遠方の病院へ搬送する広域搬送などの訓練を行ってきました。

今回の任務は、主に熊本県南阿蘇地区の避難所や老人保健施設を巡回し、医療を必要とする方がどのくらいいるかなどの情報を収集することでした。

被災地は電気やガス、水道といったライフラインの復旧が不十分な状態でした。いつまでその状況が続くのか、度重なる余震でさらに被害が増大するのではないかと、という不安の中で、避難者は生活していました。DMATチームが訪問しただけで

表情が明るくなったり、地元の治療機関や薬局の復旧の情報などを提供することで、どこでどのような医療が受けられるかが分かり、安心したりしていました。被災地での医療は、身体のケアとともに、精神的なケアも重要であると痛感しました。

本部となった阿蘇医療センターでは、多数のチームが収集した情報を集約し、新たな医療ニーズに対応するため、現地に新たな指令をフィードバックするなどの業務が絶え間なく行われていました。西尾市民病院DMATチーム5人中2人が業務調整員として本部で活躍しました。移動用のガソリンが不足し、通信環境が悪い中でどのように情報伝達や連絡を行えばよいか分かり、大きな余震が続く中で自分の身を守ることが極めて重要であることも分かりました。

被災地の一日も早い復旧と、現地の方々の安全を祈念するとともに、今回学んだことを基に西尾市が被災した場合に備え、日々訓練を続けていきたいと考えています。

問 市民病院管理課 (☎56・3171)

市民病院Q&A

Q 病院機能評価を受審したと聞きましたが、内容はどのようなもので、結果はどうなりましたか？

院長 欄宜田政隆

A

病院機能評価とは、患者さんが安全で安心な医療が受けられるように、公益財団法人日本医療機能評価機構が行っている事業です。病院組織全体としての運営管理体制や医療の提供について第三者的な立場で評価してもらい、医療の質やサービスを向上することを目的としています。



評価調査者(サーベイヤー)と呼ばれる病院管理経験などのある医師や看護師、事務管理部門の方が、面接調査や書類調査、各部署訪問調査のほか、実際の患者さんの症例を通じて病院機能の流れや取り組みの調査などで病院を評価します。その評価が一定の水準を満たしていると認められると「認定病院」となります。西尾市民病院では、17年に初めて、23年に2回目の認定を受けました。そして、27年11月の審査を経て、28年3月4日付けで3回目の認定を受けました。

病院機能評価以外にも、個々の病院職員が自己研さんするとともに、病院全体としての目標を立て、独自で改善活動も行っています。しかし、第三者的な立場からの評価や意見、外部からの取り組みを参考にすることで、一層の改善につながっていると実感しています。

問 市民病院管理課 (☎56・3171)